NRU-east
National Railway Workers' Union

ダイジェスト版　2026年
No. 377　9月7日

国鉄労働組合東日本本部
港区新橋５-15-５　交通ビル7F
発行責任者　伊藤　隆夫
編集責任者　武田　幸喜

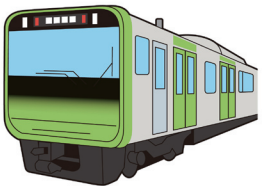
声かけて
仲間とTUNAG
拡大へ

申8号（電気関係輸送障害）交渉開催

今年1月以降、電気関係に起因する輸送障害が相次ぎました。輸送障害が相次いだことから、会社はＨＰなどでも原因と対策について明らかにしてきました。今回は、国労として改めて職場実態、グループ会社の状況を含め改善、教育体制の強化などを求めました。

この間の主な電気関係に関する大規模輸送障害

1月１６日　山手・京浜東北線 …… 停電事故
1月３０日　常磐線上野駅 …… 架線切断
２月　２日　宇都宮線 …… 架線切断



原因と対策は？

事　象	原　因	対　策
山手・京浜停電	検電設置装置の取り扱い誤り。	・ダブルチェック、テレビ電話画面活用など記録に残す。 ・復旧方法を定期的に訓練する。
上野駅架線切断	調査中。	—
宇都宮線架線切断	架線の管理が適切に行われなかった。 誤って他の架線を取り換えたため。	・作業責任者と工事責任者が図面等により相互確認する。 ・モニタリング画像を複数で確認。 ・さらに DX を推進する。

交渉では、原因と対策が示されましたが、どの事象もＧ社・Ｐ社、下請け、孫請けなど複数の事業者が関わっているものであり、教育体制、意思疎通の在り方などについて質し、改善を求めてきました。

G社・P社を含め体制の強化と労働条件改善を図り

安全・安定輸送を確立させよう！